

# 入善町 議会だより

## 12月定例議会

№. 29 号

発行所 入善町議会

編集 入善町議会だより編集委員会

富山県下新川郡入善町入膳3,255

☎ 0765 (72) 1100



豪雪お見舞い  
申し上げます

### ページ案内

12月定例会で決定したこと.....	2ページ
一般質問.....	3～8ページ
行政視察記.....	9ページ
寄付受入れ.....	10ページ

# 12月定例議会

## 223万円を追加し

## 一般会計は51億1,403万円に//

12月定例議会は、12日から19日まで8日間の会期で開かれ、一般会計補正予算、職員の給与条例の改正、火災予防条例の改正などを可決した。

### 一般会計の補正は、除雪対策費と職員給与が中心となる

◇昭和55年度一般会計補正予算 (第4号)

富山県知事の選挙費用315万円を計上した。

◇昭和55年度一般会計補正予算 (第5号)

主な内容は、除雪対策費1千300万円、人事院勧告による職員給与の改訂に要する費用3千822万円、舟見寿楽苑運営補助金1千75万円、役場庁舎改装費1千30万円、水田利用再編対策事業費2千53万円などを追加し、国庫補助金が増額されたことによる事業費を減額し、差引223万3千円を追加した。

◇昭和55年度国民健康保険特別会計 (補正予算第2号)

主な内容は、人事院勧告による職員給与を予備費から充当する。

◇昭和55年度簡易水道特別会計補正予算 (第2号)

前年度繰越金317万円により、水中ポンプ修繕料、電気料のアップを計上し、残金を積立金とした。

◇昭和55年度土地取得特別会計 (補正予算第1号)

用地先行取得の利子を支払う期日を早めたことにより27万円を減額し、前年度繰越金72万円を繰出金及び予備費にあてた。

人事院勧告による給与

の引上率は4.4パーセント。

◇入善町職員の給与に関する条例の一部改正

人事院勧告に基づき町職員の給与が平均4.2パーセント引上げられ、諸手当も扶養手当として配偶者手当1千円増、第1子、第2子は500円増などそれぞれ引上げられた。

◇都市公園条例の一部改正

農村モテル事業により造成した福島公園と飯野公園を条例に加えるための改正である。

◇火災予防条例の一部改正

これまでの条例は昭和36年に制定されたもので、現在使用されている器具や設備に合わなくなっていた。これを現況に合うよう改めるため国から基準が示されたので、これに従い条例が改正された。

機械工業センター内に入善工機株式会社を誘致

◇財産の取得及び処分

入善町機械工業センターの事務所用地は使われていないので、工場敷地提供に関する契約により返還を受けた。

この土地1千216平方メートルを自動車部品を製造する入善工機株式会社は無償譲渡することにした。

## 討論

### 消雪装置の設置に努力せよ

上島 藤吉 議員 (自民)

今回の補正は人事院勧告による職員の給与が大きな要素となっている。

町長は日頃「人事院勧告は実施するから職員も法にふれるよいうな労働運動はしないように」と言っており、勧告の実施は当然のことと思っている。

補正予算の詳細な内容について

は各常任委員会で審議され、各委員長から報告されているとおり私も可決することに賛成である。

請願、陳情については全部を採択すべきものと思う。ことにこれからは消雪装置が住民からの要望として多くなるから、町当局はこれに誠意をもって対処すべきである。



威力を発揮する消雪装置

町政一般質問

昭和56年度予算は  
どのように編成されるか

55年度予算執行の見通しと  
56年度予算編成の基本方針を問う

小林 与三雄 議員（自民）

問

自民クラブを代表して質問する。昭和55年度予算執行の見通しはどうか。過去4回の補正を考えると、町税、地方交付税、町債が伸び、国庫支出金が減っている。このような推移をみると、財政調整積立金や繰越金は大きく期待できないのではないか。

じょうべのまの用地買収費は、未執行になるのではないかと。農村モデル事業の補助金が大幅に減額になったが、過大見積りをしていったのではないかと。

町長

11月末における55年度一般会計の執行率は72パーセントである。各種事業の発注率は、この定例議会で減額を提案しているものを算入すると82パーセントとなる。歳入としては、町税の自然増で1億円、特別交付税が7千万円増えるものと期待している。従って財政調整積立金は、取り崩すことなく（仮称）上青小学校建設するための財源とした。本年度の繰越金は3千万円を見込んでいる。じょうべのまについては、まだ希望はつないでいるが、次の議会で減額しなければならぬのでは

ないかと思っている。

農村モデルの減額は、これが完成した地区にこの後どんな事業を実施するか確定するまで、継続させるために取られた処置である。

問

昭和56年度予算は、国の財政再建の影響を受け、困難な財政運用が予想される。特に公債費及び債務負担行為の残高が40億円を越え、両者を合わせた公債比率は15パーセントの注意ラインに近づくつつある。

一方投資的経費も年々低下しつつある。このような客観情勢の中で、町長はどのような基本方針で予算編成にあたるのか。

町長

昭和56年度予算は、世界的な経済の不況の中で、政府は2兆円の赤字国債を減額するという厳しい対応をしており、地方自治体も極めて苦しい編成となる。まず総合計画を基本として財源を掌握し、緊急な事業から実施する。

予算規模は、55年度の現計に近い52億円程度と考えている。公債比率は、債務負担行為をあわせると、昭和55年度は15パーセ

ントとなっており、この程度でどうしても食い止めなければならぬと思っている。従って転作その他で農民の方から予算を増額して欲しいとの強い要望があるが、実情をよく説明して了解を得たい。予算全体に占める投資的経費の比率は40パーセント以上を確保したい。人件費は25パーセント以内にとどめるよう努力する。

保育料は、4ないし5パーセント程度の引き上げは止むを得ないと思われ、道路舗装、消雪装置などの受益者負担は続けてもらおうつもりである。

問

都市再開発は、入善町商店街の命運をかけたものと思つ。来年度予算にこの事に関するプロジェクトチームをつくり、調査費を計上する必要がないか。

町長

都市計画事業のうち中央通り線は、56年度で住民のコンセンサスを待、57年度から県営として着工したいと知事にお願している。

また、公共下水道についても取り組んでいかなければならない時期に来ていると思つ。このため事務の機構を改革し、現在の建設課を建設課と都市計画課に分けたいと思つている。

問

住民サービスを向上し、事務を効率化するための行政機構を改善する意志がないか。また、中堅職員を養成を考へて、職員不補充でなく暫時補充をすることにした方が

よいのではないかと。

現在の建設課を分けて都市計画課を設置することのほか、文書人事課を庶務人事課と名称を改め、これに広報係と自治係を加えること、国民健康保険を環境課から住民課へ移すなど来年度から改善する。

問

一般職員の新規採用は行わない。第2期転作の目標が決つた。富山県への割り当ては北陸4県で最高の18パーセントとなっている。全国一の良質米産地としてはとつてい受け入れ難い数字である。町長はどのように対処するのか。

町長

第2期転作について富山県の割り当て18パーセントは、日本一良質米の産地である入善町にとり、まったく厳しいものだ。しかしこれはさけて通れるものではない。当面は第1期転作の経験を生かして対応する。

転作促進費、機械導入補助等は今後も続けて行く。転作物物は流通面で問題があるが、比較的安定している。大麦、大豆、球根、大根、ネギ、牧草等を中心に考えている。

大型転作に対する新規事業が農林省で計画されているようなので、これを得て出来るよう努力している。いずれにしろ農民の皆様の声をよく聞き、関係機関とよく相談し、転作対応とその定着化に努力していく。

# 土地開発公社を

## 設立できないか

石川 昭 男 議員（自民）

**問** 各種の公共事業を実施するに当り、いつも困るのは用地の確保である。

**入善町では、現在特別会計によりこれに対処しているが、中央通り線、中央公民館、統合小学校など、今後における用地の需用を考えると、土地開発公社を設立することが必要になってくるのではないか。**

**また土地の取得に関連して分譲宅地についてであるが、入善市街地ばかりでなく、西入善駅前造成出来ないか。**

**町長** 各種用地の取得は、大変困難な仕事である。

昭和57年度からとりかかる予定の「街路中央通り線、幅員20メートル」「学校用地」「分譲住宅用地」等、非常に膨大なものとなる。

県は町自身が土地開発公社をもつことは、財政面に問題があると消極的である。県の開発公社を利用することも方法のひとつだが、いろいろとめんどうな手続が必要である。知事ともよく相談しながら結論を出したい。

西入善駅周辺にも分譲宅地は検

討している。いずれにしろ「便利な場所」で「安い価格」の宅地造成を考えている。

**問** 本町では、学校生活の目標が定められた。

(1) 創意ある学校運営に努める。  
(2) 心の通い合う暖い人間関係を育てる。  
(3) 創造的な知性を伸ばして、自ら考える力を養う。  
(4) 健康な身体と、強い意志の育成に努める。  
(5) 実践と結びつく研修を深める。

以上のことについて、具体的な指導としてどのように行われるのか。また、本年から学習指導要綱が改訂され、見字学習、野外学習など、ゆとりの時間が設けられたが、どのようになされているか。

**町長**

学校施設の整備もさることながら、教育条件の整備が必要であり、教師の能力、資質の向上が最も大切である。

豊かな町とそこに培われた自然な教育でなければならぬ。

5項目は、教育の指針として当然のことであり、学校、父兄、家庭、社会と、幅広い分野からの教

育参加が必要である。

**教育長** 教育内容については、5項目の重点目標を定めて行っている。

ゆとりの時間は、各学校の地域性や、特殊性を生かしながら、不慣れな面もあるが、それぞれ工夫しながら行っている。

**問** 新しい教育のあり方としてオープンスクールを導入するか。

**教育長** オープン教室は、最近減少する方向にあり、それよりも1クラスの人数を少くして、全体の能力を上げることに重点が置かれている。基本は、読み、書き、そろばんといふことを忘れず、個人の能力を十分に伸ばす教育が必要である。

**問** 最近のテレビや新聞には、連日

# 56年度は総合計画のよおし 事業を実施できるか

福沢 万次 議員（社会）

**問**

入善町総合計画の実施計画につき次の点について伺いたい。

(1) 昭和56年度一般会計規模は約52億2千万となっている。主な歳入を見ると、町税、地方交付税、

国庫支出金などは増、県支出金は減となっているが算出された根拠は何か。

のように青少年の非行、校内暴力の事件が報道されている。このような事件を起さないためどのような指導をしているか。

**町長**

入善町の学校には、非行暴力事件はほとんどない。いずれにしても学校暴力は、社会的風潮となっている事からであるので、学校、PTA、その他関係機関と協力しながら対処して行きたい。

**問**

飯野小学校は老朽化しており、更に児童が増えるために教室が不足する。このため改築が望まれているが、(仮称)上青小学校の次は飯野小学校の改築を行う考えがあるか。

**町長**

飯野小学校の改築については、早急に結論を出すわけにはいかな

いが、今後の問題として相談していきたい。

**問**

一般水路の改修の負担区分は、国が50、県が25、地元が25パーセントである。これを2級河川に昇格すれば、地元負担がなくなる。今後改修が予定されている平會川、布合川、田茂川、青島用水を2級河川に昇格申請すべきではないか。

**町長**

中小河川の2級河川への昇格は、補助率の関係で県内の多くの同様河川の申請がされているが、平會川が最も近い線にあると思う。時期としては来年8月を目標にしている。布合川、田茂川も準用してもらおうよう努力をしている。

ついでいただきたいのと、駅前遊休地利用について国鉄と交渉を進めて欲しい。

**町長**

(1) 町税と地方交付税は、本年度並の自然増を見込んでいる。国庫支出金の大幅増は、統合小学校の建設、勤労者福祉センター建設事業に伴うものを予定しているため、県支出金の減額は農村総合整備モデル事業が終了のためである。

(2) 勤労者福祉センターの建設は、町内1万2千に及ぶ勤労者へのお返しとして建設を意欲的に考えており、財源の見直しもある。

(3) 総合体育館建設は、他市町に

ないような立派なものをつくる事を前提に、財源を検討している。別途に相談する要素もあると思う。西中学校の夜間照明施設については、これからも検討していきたい。

(4) 駅前自転車置場は、本年度中に増設するがまだ足りないのので、国鉄宿舎2棟の払下げが確定すれば、明春さらに150台分を増設したい。

問 町職員の労働条件改善について聞きたい。

(1) 学校用務員、給食調理師など現業職員の賃金は、12月の改訂により県下で最下位になるのではないかと聞かれている。これを改善する考えがないか。

(2) 米飯給食に変わったことにより、調理員の労働が過重となっている。人員を増加出来ないか。

(3) 入善町の職員の退職勧奨年令は低くなっている。中でも女子の現業職員は県下でも最も低い方である。これを隣町並みに引上げられないか。

町長

(1) 一般行政職員の給与は県下で良い方に属しているが、現業職員の給与は悪い方であると認めている。米年度見直しをし改善を考えたい。

(2) 米飯給食に伴う調理師の負担増は、待遇を改善することで対処し、人員の不足はパートで補いたい。

(3) 退職年令の引上げは、法律が

制定されると当然従うが、現状ではいろいろの事情があり出来ない。特殊な事情のある人に対しては考慮する。

問

上越新幹線が営業運転を開始する時点で、特急停車が実現する見通しはどうか。

町長

入善駅の特急停車は、隣町の事もあり可能性は6割程と思っている。

問

北陸新幹線の早期着工のため、工事費の一部地元負担問題が協議されている。

入善駅に特急が停車した場合と、北陸新幹線が完成した場合の、東

## 北陸新幹線の地元負担を どのように考えているか

岩

場

俊 議員 (民社)

問 福沢議員の質問と同じ内容となったので、関連して質問する。

入善町総合計画の実施計画を審議した総務委員の一員として、計画のとおり執行してもらいたいとの立場で質問する。

昭和56年度の歳入について、財源の確保が可能であるか。計画によれば昭和56年度の町税、地方交付税、国庫支出金と他の年度と比べて伸びが倍近くであり、異常

京都心までの時間を比較すると、2時間程早くなると思われる。このことに、3兆円とも言われる大きな投資することに、疑問を感じるがどうか。

町長

北陸新幹線の建設については、知事が一生懸命運動していることなので、反対表明は出来ない。

私の考えでは、それより高山まわりの新幹線を建設して北陸線と結び、北陸線を改良してスピードアップし、上越新幹線と結んで環状線とした方が望ましい。

膨大な投資をし、年月をかけて、2時間程短縮するだけでは意味がないと思う。

町長

昭和55年度は、石油ショックからの立ち直りの時期であり、予算の見積りが困難であったので、低く押えざるを得なかった。その後

の推移は、不況は不況なりに安定したものとなり、確実に見通しに立って積算したので、確保出来ると思っている。

問 昭和56年度予算の作成に当って、



北陸新幹線は実現するか

債務負担行為についてであるが、去る3月議会町長は、「債務負担行為について打切ること前提に見直したい」とのべられ、「債務負担を含めた公債比率の限度を何パーセントに置くか」との質問に、町長は、「15パーセントを死守したい」と言われたが、今もその考えに変わりがないか。

町長

債務負担行為を完全に打切ることとは、なかなか困難である。しかし、一般財源をにらみながら、指摘の通り債務負担も含めた公債比率を15パーセントに押えることは、私の信念であり、来年度予算もその考えで編成したい。

問 北陸新幹線の着工に伴う地元負担には、いくつかの問題をほらんでいる。

一部地域の国家事業のため、法律を改正してまで地方に負担を求

町長

地元負担までして、北陸新幹線を優先着工させることを中沖知事は本気で考えていないと思う。

3分の1負担は、過重であるというところは知事もよく知っている。

地元の熱意がどの程度のものかという踏み絵が、3分の1負担ということになったもので、法改正はできるものではないし、町に対しての負担を求めることは、考えられないことである。当然国が処置すべき性格のものであり、優先着工を勝取るための、知事の作戦勝ちと思っている。

# 障害を持つ児童の 保育をどうするか

九里 郁子 議員(共産)

問 保育の問題についての考えを聞きたい。

- (1) 昭和56年度の保育料は、据置くべきかと思うがどうか。
- (2) 居残り保育は、制度化されていらないため少なくなってきた。実態を調査し、気がねなく預けてもらえるようにすべきではないか。
- (3) 酪農を振興するためにも、3才以上の保育園児に牛乳を飲ませられないか。
- (4) 障害を持つ児童の保育は、一般の健常児と同じように行われているが、保母の善意と熱意だけでは対応出来ないと思う。これからどのように進めてゆくのか。

町長 (1) これは参考のためであるが、入善町の預金高は県平均の2倍もあり、町民はよく働き、裕福であることを示している。

あれもこれも町で負担せよと言われても、一般財源には限度があり、町にはどうしてもしなければならぬ事業があるので、歯止めが必要なことを理解願いたい。

保育料を4ないし5パーセント引上げざるを得ないと言っているが、これは国が示している基準の

80パーセントであることを、大所高所から理解願いたい。

(2) 居残り保育は、要望に応じて行っているが、ほかの子が帰るとその子も帰らなくなり、最近では居残りを減らす傾向にある。

希望者と、保育所の職員との話し合いを充分にしながら、要望に応じてゆきたい。

(3) 3才以上の保育園児に牛乳を飲ますと、1ヶ月13万円、年間で

は1千200万円もかかるのでとてもできない。学校が夏休みで、牛乳が余る時期については考えてみた。

(4) 障害児の保育は、軽度のものはより手がかかる。現在は12名の障害児を保育しており、混合保育をしている。

混合保育は、健常児と一緒にいることにより、良い方向に向う面もあるので続けていきたい。

中には1対1で、保育しなければならぬ場合もある。また母親の付添保育もあり得る。

また、重度のものについては、つくし学園に入所させるを得ない児童もあると思われる。

問 教育条件の整備と父兄負担の軽減について聞きたい。

## (仮称)上青小学校建設の 計画と構想を聞きたい

西尾 三郎 議員(自民)

問

上原、青木統合(仮称)上青小学校の用地は、関係者の協力によりまとまったようである。

両地区では、いつ、どのような学校が建つのか期待しており、構想を聞きたい。

町長 (仮称)上青小学校の用地を確保するため、地区住民から積極的な協力をいただき深く感謝してい

問

総合計画の実施計画では、総組12億6千905万円、昭和56、57年度と2年で建設し、体育館を未設のままに開校することになっている。

校舎の面積は、鉄筋コンクリート造りで5千平方メートル、食堂600平方メートル、給食室170平方メートルを計画している。

学級の規模は、各学年3学級の18学級と特殊学級1、特別教室5

- 減について聞きたい。
- (1) 舟見小学校と飯野小学校の便所は暗い上狭く、あまり衛生的ではない。学校便所の水洗化計画を聞きたい。
- (2) 手洗の蛇口や水量が足りない学校があると思うが、実情を把握しているか。
- (3) 学校図書費や給食燃料費は、全額公費負担に出来ないか。

- 山の4小学校で、1カ所の改良には、1千万円程かかる。これを2カ年で解決したいと思っている。
- (2) 手洗の蛇口や水量が不足する学校があれば、支障のないよう確保する。
- (3) 給食用燃料や図書費を、全額町が負担することについては、自治体として出来る範囲のサービスはするが、そのため健全財政をくずすことがあってはならないので、歯止めとけじめをつけなければならぬと思っている。



統合される上原、青木小学校

のほか、多目的ホールを取り入れた楽しい校舎にした。

基本設計では、近代的な感覚に富み、教育効果を考えたいものとし、教師にとっても使いやすく、学校開放のことも考えて校下住民から

親しまれるものにした。

そのため、本年4月から入善町学校環境研究会を組織し、各種調査、討論を行っている。まもなく案が出来るので、議会で発表し決定したい。

# 学校給食用の牛乳に対する 国の負担が打切られるのではないか

屋木忠義 議員（自民）

**問** 学校給食用の牛乳一本につき、国は現在5円80銭を負担している。政府は、来年度予算の編成にあたり、財政難を理由にこれを打ち切りたいとのことである。そうなることを町で負担していただけるか。

**町長** 小中学校の給食で、児童・生徒に牛乳を飲ませよう努力してまいりたい。

酪農家としては、学校が休みの期間に牛乳が余ることが問題だと思ふ。今年はこの期間の消費を助けるため、町内の事業所へ飲用をお願いした。来年は、保育所の園児に、この期間だけでも牛乳を飲ませたいと思っている。

**問** 入善町の住民税や固定資産税について、他町との比較を住民に説明すべきだと思ふがどうか。

**町長** 入善町の税金は、他町に比べて決して高くない。

個人の町民税の均等割及び所得割は、県下の全市町村が、標準税率を適用しているのと同じである。法人の均等割や法人税割も、標準税率を適用しているのので、下新

川3町とも同率である。

固定資産税については、超過税率の100分の15を適用しており、標準税率につく低い税率になっており、朝日町も同率である。宇奈月町は100分の17を適用している。県下で標準税率を適用しているのは2市町村で、他の33市町村は超過税率を適用している。

# 校内暴力をどのようにして 防いでゆくか

大林政雄 議員（自民）

**問** 中学生の校内暴力が社会問題となつてきている。幸い入善町では発生していないようであるが、対岸の火事とは言つておれない問題である。町当局はどのような対策を考えているか。

**町長** 中学生の校内暴力は幸い入善町では発生していないが、その風潮はあるので対岸の火事とは言つておれない。

学校での非行防止策としては

(1)児童、生徒が学校教育に適切出来るよう学習や進路指導を工夫する。

(2)全教師が一体となって生徒指導に取り組む。

(3)家庭や地域社会の関連機関と連絡を密にする。

以上のことを考えている。

これらをふまえて「暴力は悪なのだ」という普世を認識させたい。年末には補習センターを開設し、PTAと連携をとり強く進めて行



明日を担う中学生

**問**

農工一体化をめざした町づくりは大きな成果を上げてきた。近年転作が実施されるようになってから農業所得が落ち込み、これから転作が強化されることを考えると、農工のバランスを保つことが難しくなっていると思ふ。

町長は農工一体化を改め、工業の町とする考えがないか。

**町長** 農工一体化とは農業を近代化したことにより省力化し、余剰の労働力を第二次産業、第三次産業に誘導していくものである。従つて農業の近代化なくして工業化はあり得ないと言える。

町民所得から考えると、農業所得は給与所得に比べはるかに少く、工農一体化と言つた方がよい程に

なっているが、兼業を支えているのは農業であり、健全な町を育てるのは安定した農業であると思うので、今後も農工一体の町として進めていきたい。

転作の強化については、町長としてひとまずは受けて立つが、内心は不満を持っている。なんとか少しでも軽減し、農家に納得していただきたい。

富山県の西本農業水産部長が転作は押しつけないと言つたようだが、真意はわからない部分もある。なので今後も見守つて行きたい。

**関連質問** 九里部子議員（共）

農工いずれに片寄つても農工一体化とは言えない。

転作が強化されようとする中にあつて農業の基本的な考え方を聞きたい。

**町長** 国際的な農産物の価格や、国の政治全体から見ると大きな目で農業を見ていただきたい。

米が余り消費者から「税のムダ使いだ」との声が強く、政府も農家のことはかり言つておれない。

また食糧制度がある以上は、政府は米の買入れを補償しなければならず、転作が割当てられるのは止むを得ないと思つている。

入善町では農業をしながら勤めに出るということで、思想が温厚で、生産性が高く、企業も喜んで進出して来ている。そういう面でも農業が役立っている。

# 国際障害者年を

## 美りあるものにせよ

池原 金与志 議員（自民）

問

来年は国際障害者年である。町はこれを有意義に、また実りあるものにするためどのような記念事業や福祉施策を行うのか。

町長

県では知事を中央本部長として推進本部をつくり対応すると聞いている。

町としては障害者の団体と社会福祉協議会とに協力をいただき、障害者協議会を充足させ事業の推進について協議する。

幸にして入善町が中心となり建設している新川むつみ園は、来年4月に開所することになっており、これを国際障害者年の記念事業とし、喜んでもらえる運営をしたい。

記念式典や行事を行うことも意義があると思うが、長期の展望にたつてどんな施策をとればよいか、どんな施設をつくればよいか、財政事情をにらんで対処していくのが良いと思っている。

問

福祉関係の施設が充実するにつれ、障害者から福祉バスの運行を希望する声が強くなっているが、実施出来ないか。

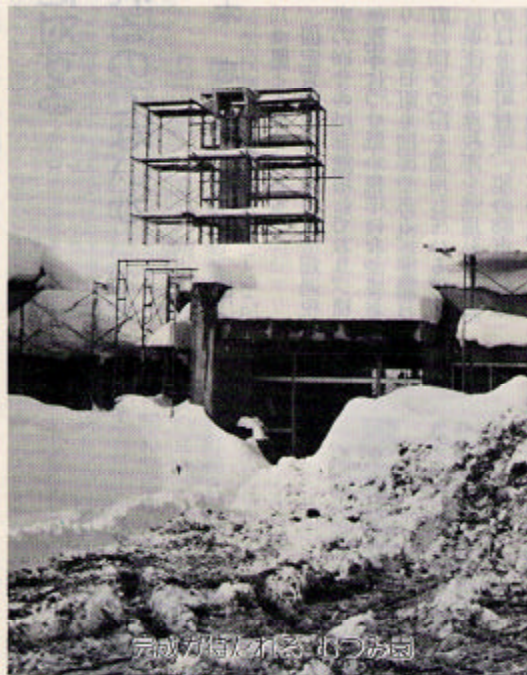
町長

福祉バスの運行には大きな経費を伴うので、一般の町民から理解を得なければならず、健全財政を守る立場からも慎重に検討したい。

問

国勢調査によると昭和45年から55年までの10年間に、入善町の人口は1千500人増加し喜んでいる。これからも人口が増えるものと思われ、しっかりした住宅対策が必要である。

東町住宅は昭和56年度に改築が予定されているが、改築する期間



完成が待たれる入善町

の仮住宅をどうするのか。

昭和57年度に建築される計画の雇用促進住宅は、多くの日本電気の社員が住宅を求めておられることから、日本電気に近いところが適地だという意見があるがどう思うか。

町長

定職なきところに定住なしとの原則をふまえて、入善で生産に従事する人の住宅は入善でつくってもらうことが理想であり、町もそれにむかって努力している。

東町住宅は入居者の強い要望に応え分譲することとし、町営住宅は別に適地を求めて72戸を建設したいと考えている。

日本電気に対しては出来るだけ早く住宅をつくるようにと要望している。会社では考慮中のようである。

# 茨城県の鹿島町と姉妹都市の

## 提携をすればどうか

竹内 壮太 議員（無所属）

問

10月に議員の研修視察のため訪れた茨城県の鹿島町は、人口3万9千500人で鹿島臨海工業地帯の中心にあり、農工一体の実をあげている町である。

更に同町の総務部長は入善町出身の五十里という方で、同町は姉妹都市として提携することの条件を備えていると思う。

町長は姉妹都市の提携についてどのような考えを持っておられるか。

町長

私は鹿島町を見ていないので即断は出来ないが、有力な候補であろうと思う。

入善町の出身で、ブラジルで成功している方から「姉妹都市提携の橋渡しをしたい」との申し出もあるが、人と人とのつながりだけでなく、歴史、文化、経済の面で当町と何かのつながりのある都市でなければ意味がないと思っている。

県内の例を見ても国内、国外といろいろで、姉妹都市の選択については充分検討し、前向きに議会とも相談をしていきたい。

職員の数に30名である。現在の職員数は30名であり、総数では定数以内となっているが、各部署の人員には過不足が生じている。

定数条例を見直す考えがあるか。

町長

3月議会までに一部の機構改革を実施する考えである。従って定数についても見直しをしている。ただし30名の定数の枠は崩すことなく、仕事に見合う形で人員配置を考えたい。

問

保母の採用について町長は「臨時パートから正職員への登用をする」との見解をのべておられるが、公募との関係はどう理解したらよいか。

町長

公募するという余裕はない。臨時パートとして働いておられる方は、それぞれ一生懸命勤めており、正規の保母に負けない者もいる。その中から助役や人事担当と相談しながら正規職員へ登用しているのだから、不明朗な採用はしていない。



# 行政視察記

小林 与三雄

## 第1日目

筑波研究学園都市の行政区域は、茨城県筑波郡筑波町ほか3町2村の全域となっている。

関東平野の中央やや東に位置し、北は秀峰筑波山を望み、東には霞ヶ浦をもち、自然に恵まれた環境にある。昔は一面松林であったというその面影が、今もいたる処に残っている。この土地に3兆円近い国家財政が投資された目的は2つある。その1つは、国の科学技術の振興と高等教育に対する時代の要請であり、いま1つは、東京及びその周辺の国の各研究機関をここに移転することによる、首都圏への人口集中を緩和するためのものである。したがって、自然的に出来た都市と違って、道路、上下水道、公園等、都市機能を果す公共施設が完備していることである。例えば南北に走る2本の都市計画道路(延長約2千メートル)は、歩道、自転車道のほか植樹帯を確保し、車道と完全分離を図り、また、車道を宅地より低くし、交通公害がより少くなるよう考えている。

各学部、大学院、大学付属病院など近代建築が林立している。学生数は7千700名余、年間経費は10万都市の予算に匹敵することである。研究機関の主なもの、宇宙開発事業団筑波宇宙センター、国土地理院、国立防災科学センター、農業技術研究所等々、各省市43機関である。見のがせないのは公園である。自然の地形を生かした広大なもので、新都市に全くふさわしいものと言える。また特筆したいのは洞峰公園体育館である。これは未来のエネルギー源として、太陽熱利用の実用につながるモデル施設として、16億円の経費を投じて建設した体育館である。合掌造りと思わせる屋根の南面に特殊ガラス(200cm×100cm×10cm)1千29枚が張りつけられ、その中を細いパイプを通し、水を流し、太陽熱で暖め熱交換によって温水をつくり、これを利用してプールができていて、予想されるエネルギー不安に備えたひとつの実験である。

ただ、この都市づくりにも問題点がないわけではない。それは当初予定された人口計画が、土地の高騰(当初1反歩30万程度の価格が、10年余りで300倍の坪30万になった)によって、個人の住宅建築が困難となり、人口がはりつかなくなったことである。理想都市の前途も多難と言えよう。

## 第2日目

岩 場 俊

我々にとっては、石油にかわる当面のエネルギー源としての原子力を、安全性の面から東海村の人はどう受け止めているか、行政の対応がどうか、きわめて興味深い課題を胸に、第2日目東海村役場へむかった。

東海村役場での概況説明では、原子力の安全性についてはいささかの不安もなく、教育文化の向上に原子力関係施設の誘致は、大きな役割を果しているとのことであった。

昭和31年に原子力研究所が出来てから、その関連施設が13も建設され、従業員数5千人、施設敷地55ヘクタールで、町全体の7分の1となっている。人口は、入善町に匹敵する3万9千500人で、原子力研究所誘致時の約3倍になっている。

原子力についての行政の対応は放射能監視の体制が、国、県、原子力事業所、東海地区監視委員会、東海村自体のチェック機能と5つの組織による測定が行われており、我々が訪れた時も、各地の測定器は3.5マイクログレントゲンを示し、天然の放射能と何ら変わらない状態であった。

浦の豊富な水とを結びつけて工業地帯に開発された鹿島町は、鹿島神宮(6、7世紀につくられたといわれる)をもつ古い歴史と文化の町でもあった。昭和36年にたてられた開発計画は、約2万ヘクタールの工場地帯と、20万トン級の船舶用港湾の造成という膨大なもので、計画の当初は、開発賛成派と反対派、真二つに割れ、苦難なスタートを切ったが、しかし、現在では39の大企業の進出によって活気にみちた工業地帯となっており、人口も約2.3倍の3万8千人に増えている。入善町出身の五十里部長は、町行政の要である総務部長であり、都市化の波と、古き鹿島との調和をいかに保っていか、これからの課題であると言っておられた。工業地帯にある近代化工業の全ては、コンビナート企業の特長性から、いわば地域絶縁型の性格をもっており、地場産業との結合性がないという悩みをどうするか、地場産業の育成をどう進めて行くかが、今後の最も大きな課題ではなからうか。

11月	12月	1月
6日 決算特別委員会	5日 議会運営委員会	23日 議会だより編集委員会
7日 決算特別委員会	9日 黒部川水利調査特別委員会	25日 新川広域協議会(魚津市役所)
10日 決算特別委員会	12日 第25回議会定例会	17日 文教厚生委員会
13日 決算特別委員会(行政視察)	13日 議員全員協議会	19日 第25回議会定例会
14日 (愛知県名古屋市長、東浦町ほか)	15日 第25回議会定例会	25日 産業建設委員会
15日 町ほか)	16日 総務委員会	
18日 決算特別委員会	17日 文政厚生委員会	
19日 産業建設委員会	18日 第25回議会定例会	
21日 総務委員協議会	19日 第25回議会定例会	
25日 全国豪雪地帯町村議長大会(東京)	20日 第25回議会定例会	
26日 全国町村議長大会(東京)	21日 第25回議会定例会	
上、中、下新川郡町村議長会総会(東京)	22日 第25回議会定例会	
27日 決算特別委員会	23日 第25回議会定例会	
28日 決算特別委員会	24日 第25回議会定例会	

寄付者のご厚志に深く感謝します。

寄付年月日	寄 付 金 品	寄 付 目 的	寄 付 者	
			住 所	氏 名
55. 9. 30	ワイヤレスアンプ、マイク各1台 (¥79,000)	芦崎保育所の 備品として		昭和55年度母の会 代表 井田 和子
55. 10. 3	カメラ 1台 (¥30,000)	野中 育所の 備品として		昭和55年度母の会 代表 中 島 道江
55. 10. 13	こども用自転車 1台 (¥25,000)	青木小学校の 備品として	入善町青木1205 " 2435	山 大 崎 沢 芳 貞 雄 男
55. 10. 14	こども用自転車 2台 (¥50,000)	"		黒東安全協会青木支部 支部長 長 島 輝 次
55. 10. 14	こども用自転車 1台 (¥25,000)	"	入善町青木1885	長 島 輝 次
55. 10. 16	樹木(ドウゲンツツジ) (¥150,000)	中央公園へ	入善町青島606	青 木 正 雄
55. 10. 17	樹木(松13本、他11種)	"	入善町入膳273	上 田 寅 吉
55. 10. 27	綱引き用ロープ 1本(60m) (¥60,000)	飯野小学校の 備品として	入善町芦崎419	広 田 高 明
55. 11. 8	旗立台、児童教具 各一式 (¥37,300)	吉原保育所の 備品として		昭和55年度母の会 代表 船 平 潮 子
55. 11. 8	桜苗木 55本 (¥300,000)	舟見山自然公園へ		入善ライオンズクラブ 会長 岩 崎 俊 夫
55. 11. 13	暗幕 一式 (¥58,850)	青木保育所の 備品として		昭和55年度母の会 代表 橋 本 稔 子
55. 11. 19	講堂及び会議室放送設備 一式 (¥226,560)	入善小学校の 備品として		入善小学校PTA 会長 室 郁 雄
55. 11. 26	ベルトタイマー・トランシーバー (¥100,000) 各1組	們山小学校の 備品として	入善町們山新215	扇 原 勝 郎
55. 11. 26	校舎前庭の芝 340㎡ (¥153,000)	西中学校の施 設として	入善町青木601	野 沢 嘉 道
55. 11. 26	書及び額(大平山壽書) 1点 (¥45,000)	西中学校の備 品として	入善町入膳5225	二 上 初 子
55. 11. 26	校舎前庭の造園 660㎡ 一式 (¥635,000)	西中学校の施 設として		入善西中学校PTA 会長 本 多 幸 男
55. 11. 26	理科教材園 160㎡ 一式 (¥344,200)	"		"
55. 11. 26	綱引用綱、デジタル時計 (¥80,000)	們山小学校の 備品として	入善町們山545	上 島 勝 二
55. 12. 1	入善町の社会福祉活動費として (¥1,000,000)	入善町へ	入善町入膳5390	坂 本 孝 雄
55. 12. 1	" (¥1,000,000)	"	入善町入膳5291	山 本 正 勝
55. 12. 1	" (¥1,000,000)	"	入善町舟見 1098の1	大 林 か ず 子
55. 12. 1	" (¥4,000,000)	"	入善町舟見1602	脇 坂 悌 治
55. 12. 1	" (¥1,750,000)	"	入善町舟見1583	戸 出 元 雄
55. 12. 1	" (¥1,000,000)	"	入善町上野11553	小 林 淳 介
55. 12. 1	" (¥1,000,000)	"	入善町東狐1031	川 瀬 遠 也
55. 12. 4	楽器 一式 (¥32,000)	小摺戸保育所 の備品として		昭和55年度母の会 代表 小 路 丸 子

編集後記



連日雪との戦いでさぞかしお疲れのこととお見舞申し上げます。一般の建物は、積雪1メートル50センチに耐えるよう設計されていますが、古い家はそれなりに弱くなっていますから、ご苦労でしょうが早めに雪降しをしたいです。降した雪は万一の災害を考え後始末をすることも大切です。側溝へ雪を流す場合、下流では浸水のためテナヤ、ワシヤをしていのに上流ではせつせと雪を捨てているのを見かけます。これなどは天災プラス人災で被害者はたまりません。

自宅の前を早くきれいにしたい気持はよくわかりますが、お互に注意し雪捨て作業をしたいものです。

編集委員  
米島一信 若島信行  
岡島松次郎 上野幸一  
岩場 俊 小林与三雄  
江畑伊作 福沢万次